

1. 基本情報

区分	農地	担当者名	櫻井 伸治
タイトル (英文)	Monitoring of soil radiation doses from contaminated soil buried in a paddy field in litate Village, Fukushima		
タイトル (和文)	福島県飯館村の水田圃場に埋設された汚染土壌からの放射線量モニタリング		
キーワード	福島, 放射性セシウム, 漏出, 放射線量, 水田圃場		
著者	Masaru Mizoguchi		
文献	Paddy and Water Environment, 17, 299-302		

(1) 対象地域

福島県飯館村の汚染土を埋没させた水田圃場

(2) 重要な図表

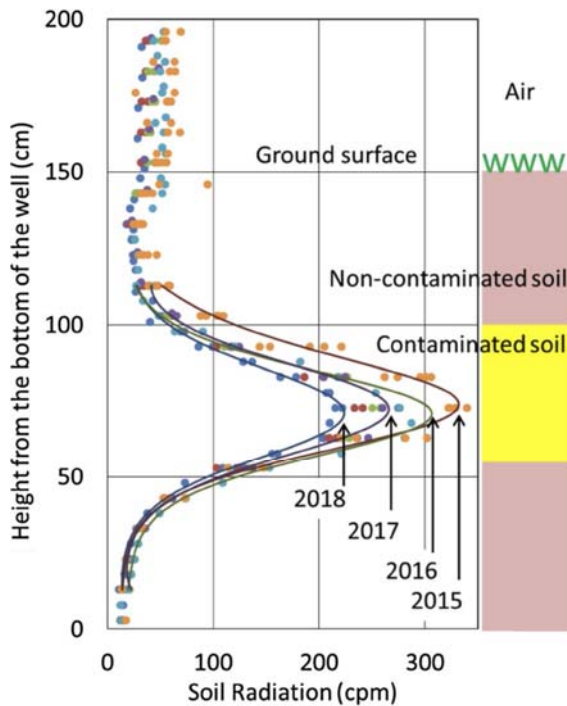


Fig. 2 Profiles of radiation doses in the soil every 6 months starting in March 2015. Note that Cs-137-contaminated soil was buried in the layer from around 60–100 cm high from the bottom of the well. The ground surface is at the height of 150 cm from the bottom of the well. The solid lines are fitting curves of data measured in March 2015, 2016, 2017, and 2018

2. 提言につながる情報

(1) モニタリングへの活用

汚染土埋没工法における中長期モニタリング法の報告事例

(2) 流出挙動・経路

- ・汚染土埋没工法を用いた除染土壌において、セシウム放射線量はガウス分布に従う。
- ・分布のピーク位置は3年間で変わらず汚染土の深部への漏出は見られない。
- ・汚染土埋没水田で通常の農法で稲作を営んでも、日本が設定している許容濃度未満であった。

(3) 除染の際の留意点

汚染土埋没工法では、物理的に原位置にとどめているため、半減期も勘案すると数十年単位でのモニタリングを必要とする。

(4) 担当者のコメント

論文で紹介されている測器は長期モニタリングの手法として有用であると思われる。